



2008/09 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報

第 2178 回例会 2008 年 7 月 30 日(水) SAA / 常滑会員 会報担当 / 福原会員

例会会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535



点 鐘 市原 RC 会長 藤谷泰弘

ソング それでこそロータリー

お客様

日本経済研究センター主任研究員 山田剛様

山田俊雄様(父)、清水徳久様(先輩)

会長挨拶 市原 RC 会長 藤谷泰弘



みなさんこんにちは。

卓話をお願いしました山田さん、山田さんのお父さん、清水さん、今日は、お出で下さりありがとうございます。新年度になりまして、バタバタのヶ月でした。今日を含めて例会が 5 回、地区会議などのメーキャップ対象の出席が 7 回。計 12 日。出席率 240 パーセントです。地区会議などの内容を、場合によりましては、来週にでも委員会報告をしていただくと助かりますのでよろしくお願いいたします。

ところで今日は、山田様にお願いを致しましてインドの可能性のテーマでお話しを頂きます。私の僅かばかりの知識ですが、昔のインドは豊かな国だったようです。多分 1600 年あたりに東インド会社が出来たというか進出してきて、始めのうちはずっとインドの貿易黒字でしたが、当然、赤字側の西洋は面白くありません。インドは、国内のいざこざに付け込まれたりして最終的には国を乗っ取られてしまいました。西洋の、難癖を付けるテクニクは、天才的です。いま NHK 大河ドラマで幕末のことを放映していますが、日米修好通商条約では、日本は、騙されまい騙されまいと慎重に慎重に対応しましたが、それでも騙されました。金と銀の交換レートとその管理に騙しの条文がありまして、金の大量流失がありま

した。インドのときもそうですが、止めてくれと言っても武力の前に何も出来なかったわけです。

というわけで、今日の山田様のお話は非常に楽しみしております。よろしくお願いいたします。

幹事報告 幹事 小川長二

・8/27(水)インターアクト年次大会が鴨川にて開催です。

川島会員より講師紹介

辰巳台中学校卒

県立千葉高校卒

早稲田大学政治経済学部卒

1997 年 パーレーン支局兼テヘラン支局

2004 年 ニューデリー支局長

2008 年 ~ 日本経済研究センター、アジア研究部主任研究員

卓話 山田剛様 「新興市場インドの可能性」



急成長続くインド

- ・ 過去 7 年で平均 7.7% 成長
- ・ サービス業が牽引
- ・ 07 年度の一人当たり国民所得 = 33000 ルピー - (初の 3 万超え) 1 ルピー = ¥ 2.5

急成長達成の背景

- ・ 1991 年からの改革結実
- ・ 所得増、実需喚起、生産と消費のサイクル噛み合う
- ・ 地方・農村で消費拡大
- ・ インターネット、通信手段の普及
- ・ 競争で価格低下

規制緩和と消費ブーム

- 1993 年まで国営独占 民間航空参入ラッシュ
- ・ 不動産の外資規制緩和 アジア、中東マネー大量流入

- ・小売・FMCG (2010年までに小売スペース2700万㎡増加) = Cashman&Wakefield 調べ
- ・07年度PC出荷台数825万台(前年度比22%増)
- ・鉄鋼生産能力=02年度3500万t 11年度1億2400万tに

拡大する購買力

急成長する「中間層」

	2001年度	2009年度
年収50万ルピー以上の世帯数	251.9	997.9
うち年収100万ルピー以上の世帯数 (単位万世帯、NCARE調査より)	26.8	380.6

2010年に乗用車300万台体制へ

メーカー	2008FY	2007FY	増減率(%)	2008FY(輸出込み)	2007FY(輸出込み)	増減率(%)
フォード	33880	41795	-18.9	36388	64783	-43.8
GM	66543	38857	71.3	66543	38858	71.2
ホンダ	62801	61325	2.4	62838	61356	2.4
現代	216495	195261	10.9	360934	310786	16.1
タタ	227919	226924	0.4	242729	244965	-0.9
マルチ	711824	635629	12.0	763493	674924	13.1
トヨタ	55403	53147	4.2	55412	53149	4.3
乗用車計	1547985	1379979	12.2	1765039	1578431	11.8
二輪車計	7248600	7872334	-7.9	8068447	8491978	-5.0
商用車計	486817	447765	8.7	545816	517302	5.5

(インド自動車工業会 = SIAM調べ)

対印海外直接投資(FDI) ~ 雇用と所得の源泉

- ・2008年度、350億ドル目標
- ・日系企業も大躍進、07年度8.1億ドル(6位)
- ・際立つサービス産業向け投資

忍び寄る不安要因

- ・急速なインフレ
- ・高金利 消費に影響
- ・原油価格高騰
- ・米景気減速 IT産業に影響
- ・株価急落も
- ・08年度は7~8%台か
- ・そして「政治の季節」に

インド経済が大丈夫なこれだけの理由

- ・「のりしろ」大きい企業経営
- ・原材料費・人件費の売上高比率は今も減少
- ・「省エネ」「生産効率改善」はこれから
- ・電気通信、素材産業はなお好調
- ・農村・地方にも消費文化が波及
- ・国民のマインドに変化

日本企業進出の次なるチャンスは？

- ・自動車・自動車部品
- ・医薬(R&D)
- ・食品(加工)・FMCG
- ・家電・デジタル機器
- ・コンサル・サービス業
- ・3G携帯電話

インド(インド人)ビジネスのコツ

- ・日本の実力・貢献を正當に評価するが決して媚びない。特別扱いしない。
- ・税務・法務が複雑。
- ・言葉の壁
- ・格差と多様性への理解が必要
- ・「中国とは逆。参入は簡単ではないが、いったん入れば儲かる」(O・カル元FICCI会長)

ニコニコ・ソーリーボックス

藤谷会長・小川幹事 山田剛様、本日はインドのお話有難うございました。益々のご活躍をお祈り致します。

出席報告

前々回確定 77.6% 本日出席者 45名
本日欠席者 4名 本日出席率 91.8%
点鐘 市原RC会長 藤谷泰弘

コラム・ロータリー

ご趣味の勤め

市原クラブの年齢構成をみますと51歳から65歳の方が27名55%を占めております。ということは男性更年期障害の予備軍でもあります。男性は女性のように月経周期もなければ閉経もない。女性ほどドラマチックな変化はしないが、しかし男性ホルモン(主にテストステロン)は年齢と共に低下する。いつしか勃起機能の低下、気分変調、睡眠障害、内臓脂肪の増加、筋肉量の低下、皮膚の変化で始まり不安障害、鬱病まで進むことがある。余りにも会社や仕事に貢献してきたため、家庭環境も微妙に崩れていることが多い。妻は若いうちから夫抜きで自分の世界を作っているため、夫が終始家にいるのが気詰まりと感じている。いわゆる“亭主元気で留守が良い”タイプの家庭である。友人もなく妻にも疎んじられると、誰でも気分が滅入ってくるのは容易に解る。そんな事のないよう、今から趣味を持たれることをお勧めしたい。天の声がそろそろ軌道修正した方が良いのではないかと教えてくれる時期だから。(齊藤 博)